

全国学力・学習状況調査報告（6年）

4月19日に全国の6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。結果から考えられる本校児童のよさや、今後の手立てなどをご報告します。

よさ

〈国語〉

- 本校の平均正答率が78%となり、全国平均の65.6%を上回りました。
- 「【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したもの」として適切なものを選択する問いは、本校の平均正答率がともに97%以上となり、国語全設問で最高通過率となりました。
この結果から、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる児童が多いことがわかりました。

〈算数〉

- 本校の平均正答率が78%となり、全国平均の62.5%を上回りました。
- 「5脚の椅子を重ねたときの高さを求める」「椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く」では、本校の平均正答率がともに95%以上となり、算数全設問で最高通過率となりました。
この結果から、伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ること、表の中の知りたい数を求めることができることがわかりました。また、伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを、表の中の適切な数の組を用いて説明ができる児童が多いことがわかりました。

課題と手立て

〈国語〉

- △ 文章の中で適切な語句や資料を選択する正答率の高さが見られた一方、記述式の設問の平均正答率が低く、42.3%（全国約27%）にとどまるものが見られました。「【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く」では、資料を正しく読み取り問題点を把握し、条件に合わせて解決策を書くことが難しい児童が多く見られました。
⇒ 文章の読み取りを通して、情報を取捨選択、整理し、自分の考えを書く機会を多くもち、表現する力を高めていきます。また、書いた文章をお互いに見合っって自分と違う考えや表現にも気付くことができるようにしていきます。

〈算数〉

- △ 設問「テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」では、本校の平均正答率が47.4%（全国20.8%）となりました。高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて説明できなかつた児童が多く見られました。
⇒ 図形の単元では、既習内容を確認しながら学習を進めていきます。図形を構成する要素に着目し、根拠をもって自分の考えを組み立て説明する学習を丁寧に扱います。

〈生活意識調査より〉

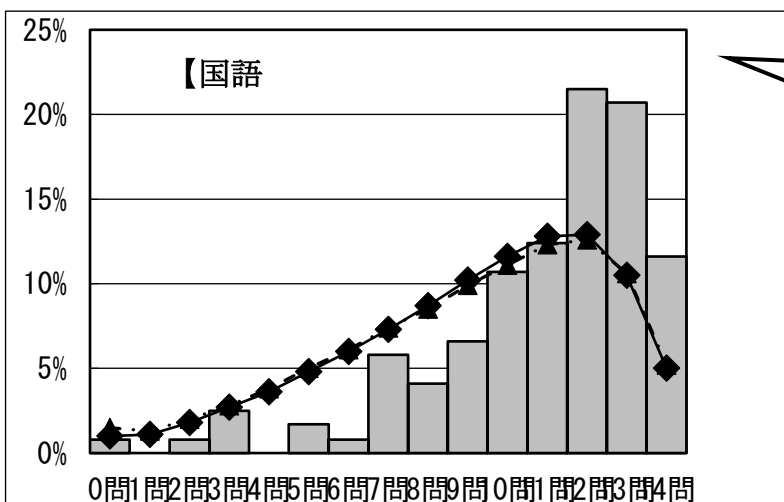
【よさ】

- 「家で計画を立て勉強している」が46.4%(全国28.7%)となり、家庭学習の習慣が身に付いている様子が見られました。「国語の授業の内容がよく分かる」の結果が全国より22%ほど高く、理解力が高いことが分かりました。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」と感じる児童が15%高く、話し合い活動や学び合いのよさを感じている児童が多いことが分かりました。

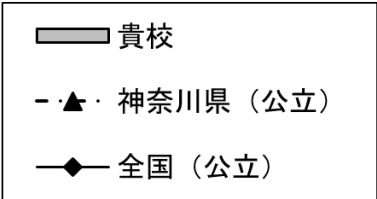
【課題】

- ◇全国平均とあまり変わらず比較的低い結果になったのは、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」でした。総合的な学習の時間や行事を通して、地域の人とつながることができる学習を充実させたり、つながりを実感できるような場面を設けたりするようにします。
- ◇ICTやコンピュータなどをさらに活用したいと回答した児童が多くいました。ロイロノートを使った学習の充実を図っているところですが、様々な教科や場面で効果的に活用していけるようにします。

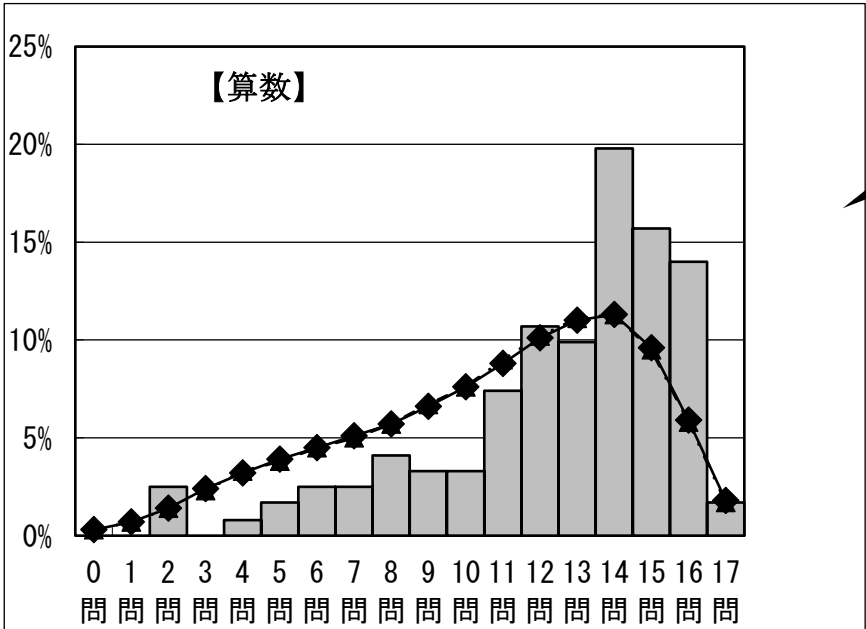
各教科で「全設問中、何問正答したか」割合で示しています。



14問中12、13問が正解した人数が多く、正答率が高いことが分かります。



正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



16問中12問～15問正解した人数が多いことから、正答数にばらつきがあり、理解度に差があることが分かります。